

令和 2 年 7 月 10 日現在

機関番号：28002

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K11959

研究課題名(和文)小離島で活躍する高度実践看護師のケアとキュアを融合した実習プログラムの構築

研究課題名(英文) Construction of a practical training program that fuses the care and cure of highly-practical nurses who are active on small island

研究代表者

宮里 智子 (Miyazato, Tomoko)

沖縄県立看護大学・看護学部・准教授

研究者番号：80382456

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,620,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、小離島で活躍する高度実践看護師のケアとキュアを融合した実習プログラムを構築するために、高度実践看護師の思考過程を明らかにして、実習プログラムを検討した。高度実践看護師は、看護の対象者がよりよく生活できることをめざし、対象者の生活背景をとらえる、体内の内部環境を描きながら、先をみすえ、生活のなかで治療を継続する方法をさぐっていた。この思考プロセスをふまえ、実習プログラムとして、「対象者の生活をとらえる」ための実習と、「体内の内部環境を描く」ための実習、「治療を継続しながら生活を続ける支援」の実習を段階的に行うことを提案する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

専門看護師のケアとキュアを融合した看護実践の思考プロセスは、病態や薬剤に関する知識をふんだんに使いながらアセスメントや臨床推論を拡大させ、患者の生活と結びつけながら、最善のケアを選択していく。この思考プロセスをふまえた実習プログラムは、小離島で活躍する高度実践看護師教育に応用され、島嶼保健看護の教育プログラムの発展と島嶼保健看護学の構築に貢献する。

研究成果の概要(英文)：This study clarified the thinking process of the advanced practical nurse and examined the practical training program in order to construct a practical training program that fuses the care and cure of the advanced practical nurse active on the small island. Highly practiced nurses aim to improve the quality of life of the subject of nursing, grasp the background of the subject's life, draw the internal environment of the body, and look ahead and seek a method of continuing treatment in life. Was there. Based on this thinking process, step-by-step training programs for "capturing the life of the target person", "training to draw the internal environment of the body", and "support to continue living while continuing treatment" suggest to do.

研究分野：看護管理

キーワード：ケア キュア 融合

1. 研究開始当初の背景

近年、チーム医療が推進され、医師以外の医療専門職の専門性を活かした役割拡大の検討が行われている(厚生労働省, 2003)。看護職については、役割拡大の一翼を担う存在として、高度実践看護師への期待が高まっている。高度実践看護師とは、大学院教育で高度な実践教育を受けた看護師であり、米国をはじめとした先進国では、修士号を持つ Advanced Practice Nurse (以下 APN) の制度が整備され、ケアとキュアを融合させた看護サービスが提供されている。米国の高度実践看護師には、専門看護師、ナースプラクティショナ - (以下 NP)、麻酔看護師、助産師の 4 種類があるが、なかでも NP 教育はますます高度化し、博士号をもつ NP の育成が推奨されている。日本においても、高度実践看護師を「個人、家族、及び集団に対して、ケアとキュアの融合による高度な看護学の知識、技術を駆使して、対象の治療・療養過程の全般を管理・実践することができる看護師」(日本学術会議, 2011) と定義し、すでに専門看護師教育(38 単位)が始まっている。また、2015 年度には NP 教育課程(46 単位)の基準が定まり(日本看護系大学協議会, 2015)、沖縄県立看護大学も当該教育課程を申請している。以上のことをふまえると、高度実践看護師にはケアとキュアを融合した看護実践が求められており、ケアとキュアを融合した看護実践は、これからの看護におけるキーセンテンスとなり得る。しかし、ケアとキュアを融合した看護実践については、キュアを看護の視点で見つめケアと合わさることで従来とは異なる治療や療養生活の形を生み出す(荒川, 2015)と報告されているが、ケアとキュアがどのように融合され看護実践されているのか、また、ケアとキュアを融合した看護実践の教育がどのように行われているのかについては明らかにされていない。

沖縄県は 160 の島々が点在する島嶼県である。遠隔孤立型の 20 の小離島には診療所が設置されており、ほとんどが、医師ひとり、看護師ひとり体制である。小離島の看護師の看護活動は、へき地診療所における看護活動(春山, 2015)と同様に、予防を含めた患者・家族の療養生活および介護支援、救急搬送時の対応、関係機関とのネットワーク作りなどの特徴があることが推察される。つまり、小離島の看護師は、保健医療福祉の専門職が少ない環境で、島で生活する子どもから高齢者までのあらゆる発達段階の対象に幅広い看護活動を行っており、島の医療において、非常に重要な役割を担っているといえる。研究者らは、小離島において、看護師が高度実践者としてキュアに踏み込み、ケアとキュアを融合した看護実践を行うことで、島の特性に応じた予防や療養生活に向けた看護が可能となり、島民の健康が増進されると考えた。

沖縄県立看護大学では、大学院に実践島嶼保健看護の科目をおき、実習プログラムを展開してきた。実習プログラムの概要は、実習「プライマリ・ヘルス・ケア実習」(2 単位)として、プライマリ・ヘルス・ケアを基盤に、島嶼保健看護の特徴を活かした高度な看護援助を実践する。次に、実習「専門強化実習」(6 単位)として、小離島で活用できるケアとキュアを融合した高度な看護実践の技術を修得する。最終段階の実習「課題解決実習」(2 単位)では、島嶼に特徴的な困難事例や実践課題を導き出し、プライマリ・ヘルス・ケアを基盤とした高度な看護技術の工夫や開発方法を修得する。島嶼保健看護学のさらなる発展のために、ケアとキュアを融合した実習プログラムを見直し、構築することは重要であった。

2. 研究の目的

専門看護師の看護実践から、ケアとキュアを融合した看護実践の思考プロセスを見出し、明らかになった思考プロセスを使いながら小離島の看護実践を具現化するための実習プログラムを作成し、提案する。

3. 研究の方法

1) ケアとキュアの融合に関する文献レビュー

Pub Med、医中誌 web などのデータベースを用いて、ケア、キュア、care、cure をキーワードとして文献検索を行った。

2) 高度実践看護師の思考プロセス

高度実践看護師 3 名の看護実践を参与観察し、その後、インタビュー調査を行い、思考プロセスについて分析した。

3) 実習プログラムの作成

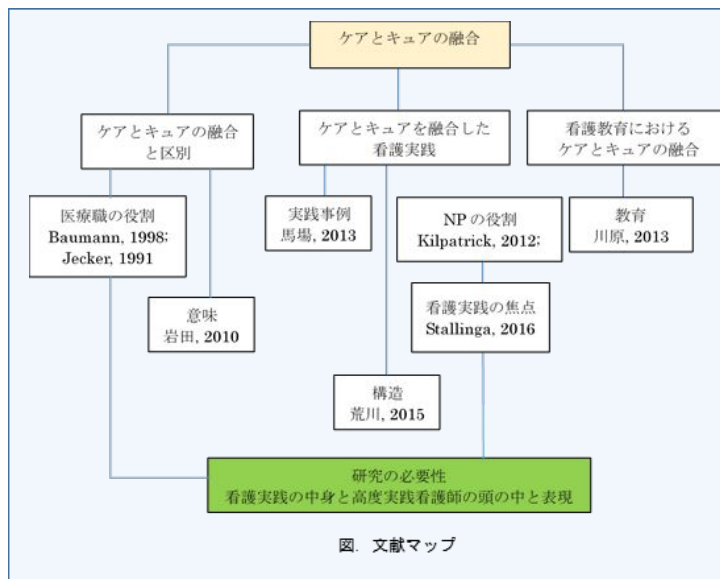
高度実践看護師の思考プロセスをふまえ、既存の実習シラバスを見直し、ケアとキュアを融合した実習プログラムについて検討した。

4. 研究成果

1) ケアとキュアの融合に関する文献レビュー

ケアとキュアを融合するとはどのようなことかを明らかにするために、系統的レビューを行った。伝統的に、ケアとキュアは、ケアは看護師と女性の分野であり、一方、キュアは医師と男性に適した活動領域であるという、性別と職種に対する固定観念によって捉えられてきた(Jecker, 1991)。また、ケアは看護師が行う、対象の生活に入り込み、“傾聴する”から“心電図モニターを管理する”など幅広い行為と、キュアは医師が行う診断や治療と、関

連づけて考えられてきた (Baumann, 1998)。しかし、ケアとキュアは、職種に特異的に区分されるのではなく、対象者の健康状態から生じるニーズによって、ケアに重点がおかれるのか、キュアに重点がおかれるのか、それとも、ケアとキュアの両方が重要になるのか、あるいは、ケアもキュアも必要としないのかが決まるのであり、統一体としてすべての医療職種に用いられるべきである (Baumann, 1998)。



海外では、高度実践看護師のひとつであるナースプラクティショナーが、医学と看護の能力を合わせ、ケアとキュアが交わる部分で活動している (Kilpatrick, 2012)。しかし、ナースプラクティショナーを目指す大学院生の修士論文を分析した結果では (Stallinga, 2016) 患者の健康状態に関して記述のあった論文のうち、48%がキュアに焦点が当たっており、39%がケアとキュアに、13%がケアに焦点があたっており、ナースプラクティショナーがケアとキュアよりもキュアに焦点を当てていることがわかった。一方、日本においては、荒川ら (2015) が、今後、役割拡大の対象となることが想定される医行為をキュアと定義し、キュアを含む部分に役割拡大を果たしている専門看護師の実践から、ケアとキュアを融合した看護実践の内的構造を明らかにした。その内部構造とは、キュアとケアを融合した看護実践に動き出すきっかけとなる「動因」、キュアとケアを融合した看護実践を支えていく「支軸」、キュアとケアの融合を進める「中核要素」、キュアとケアを融合した看護実践により起こる「結果」の4つの側面からなり、キュアを看護の視点で見つめケアと合わさることで、従来とは異なる治療や療養生活の形を生み出していることを報告した。

ケアとキュアは統一体として患者に提供されるものである。ケアとキュアを融合した看護実践は、従来とは異なる治療や療養生活の形を生み出す。つまり、ケアとキュアを融合させ、統一体として行う看護実践は、看護を発展させる可能性があり、ケアとキュアを統一体として看護を実践できるよう看護教育を整える必要がある。

一方、ケアとキュアは統一体として患者に提供されるものであることを考えると、キュアは、必ずしも医行為の実践に限らず、医学的診断や治療に関する知識をもとにした判断や臨床推論ととらえ、その判断や臨床推論に基づくケアを、ケアとキュアの統一体と考えることができる。

日本でも、すでに、高度実践看護師を「個人、家族、及び、集団に対して、ケアとキュアの融合による高度な看護学の知識、技術を駆使して、対象の治療・療養過程の全般を管理・実践することができる看護師」と定義し、すでに専門看護師教育やNP教育が始まっている。また、看護職は、人間がうまく生きていけるように24時間の生活過程を整えることを専門にしている。対象がどのような生活を強いられるようになったのか、<看護とは>に照らして病気の本質を見抜き、現象の構造(意味)を本質(看護とは)に照らして読み取り、対象に合わせて表現する能力は、様々な人間を対象とする専門職には不可欠な教育内容である(薄井, 2015)。したがって、高度実践看護師は、対象の24時間の生活過程を整えるという看護の本質に照らし看護を実践する過程において、ケアとキュアを融合させた統一体として看護を実践していることが考えられる。そこで、どのようにケアとキュアを融合させ、統一体としているのか、高度実践看護師の認識からその認識の特徴を探り、今後の高度実践看護師の教育に役立てる。そこで、本文献検討の結果から、ケアを看護師が自律して必要性を判断し患者に提供する看護ケアで主に療養上の世話を示しており、キュアを医

学的診断や治療に関する知識をもとにした判断や臨床推論、または、診療の補助であり、必ずしも特定行為などの医行為の実践に限らない行為ととらえることとした。

2) 高度実践看護師の思考プロセス

慢性疾患看護専門看護師 1 名、がん看護専門看護師 1 名、ナースプラクティショナー 1 名に高度実践看護師の看護実践を参与観察し、その後、インタビュー調査を行い、思考プロセスについて分析を進めた。高度実践看護師は「看護の対象者がよりよく生活できることをめざす」、「対象者の生活背景をとらえる」、「体内の内部環境を描く」、「先をみすえてかわる」、「生活のなかで治療を継続する方法をさぐる」であった。本研究において、キュアとは医学的診断や治療に関する知識をもとにした判断や臨床推論、または、治療の補助であり、ケアは、看護師が自律して必要性を判断し、患者に提供する看護ケアで、主に療養上の世話を示すと定義している。高度実践看護師の思考プロセスは、対象者が自らの力でその人らしく生活できるよう、医療的な知識や技術を使いながら、個別の生活を支援プロセスであるといえる。

3) 実習プログラムの作成

既存の実習プログラムの概要は、実習「プライマリ・ヘルス・ケア 実習」(2 単位)として、プライマリ・ヘルス・ケアを基盤に、島嶼保健看護の特徴を活かした 高度な看護援助を実践する。次に、実習「専門強化実習」(6 単位)として、小離島で活用できるケアとキュアを融合した高度な看護実践の技術を修得する。最終段階の実習「課題解決実習」(2 単位)では、島嶼に特徴的な困難事例や実践課題を導き出し、プライマリ・ヘルス・ケアを基盤とした高度な看護技術の工夫や開発方法を修得する。この既存の実習プログラムに、高度実践看護師の思考プロセスをふまえた実習プログラムとして、それぞれの実習の段階に、「対象者の生活をとらえる」、「体内の内部環境を描く」、「治療を継続しながら生活を続ける支援」のための情報収集とアセスメントを行う内容を加えた実習展開や実習記録、および、評価を行うことを提案する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 なし	4. 巻 なし
2. 論文標題 なし	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 なし	6. 最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	神里 みどり (Kamizato Midori) (80345909)	沖縄県立看護大学・保健看護学研究科・教授 (28002)	
研究分担者	宮城 恵子 (Miyagi Keiko) (20736011)	沖縄県立看護大学・看護学部・教授 (28002)	